

令和3年12月27日
横浜市立南本宿小学校

今年度の学校評価について

日頃より、本校の教育活動へのご協力をいただき、ありがとうございます。今回、学校評価アンケートをお願いするにあたって、今年度の本校での教育活動の特色や工夫について、いくつかご説明します。

※アンケートの回答期限は1月7日(金)とさせていただきます。

【本校の新型コロナウイルス対策】

1 教育活動を実践する上での工夫

・標語「あいてますか」の徹底

あい間を開ける

座席配置	列ごとに間隔を開け、可能な限り距離をとれるように。
登下校	一斉下校の際には、放送で学年別下校を実施。
休み時間	運動場で遊べる時間を、1～3年と4～6年で振り分け。
グループ活動	感染を防ぐため適切な距離をとって行う。向かい合わせになることをできる限り避ける。

て手を洗う

手洗いタイム	日課表の中に手洗いタイムを設け、手洗いの励行。
動画の配信	学校保健委員会で、動画による手洗いの説明。

ますマスクを付ける

毎朝のチェック	健康観察時にチェックし、声かけと確認。
衛生スタンダード	毎日の持ち物にマスクを入れ、予備の分もランドセルへ。
給食セット	衛生面を考慮し、ナフキンを使用。

か換気をする

換気の徹底	暑さ寒さとの兼ね合いを考慮しながら、最大限の換気を実施。
-------	------------------------------

・消毒の実施

→不特定多数が手を触れるところを中心に、次亜塩素酸(一部はアルコール消毒に移行)による消毒を行っています。

・参観、引継ぎ訓練等での感染症対応

→昇降口での手指消毒実施のお願いをしました。

→出席番号により、参観人数を2～4分割した、分散型授業参観を実施しました。

→引継ぎ待機場所でのソーシャルディスタンスを保つための目印を設置しました。

2 行事等の見直し

◇実施時期や内容の見直しをしました。

◎4年 大池体験学習〔10月29日(金)〕→日帰りに変更

- ・大池公園(徒歩)での森林についての学習と、間伐体験を行いました。こども自然公園内にある、青少年野外活動センターにて、焼板体験を行い、写真立てを作成しました。
- ・12月20日(月)に防災センターへ防災学習に行き、吉田新田についての学習のために大岡川周辺へ行きました。

◎5年 観音崎体験学習〔9月23日(木)日帰りで実施予定〕→中止

- ・観音崎自然博物館へ行き、自然体験学習を行う予定でしたが、緊急事態宣言の延長により中止しました。
- ・旭区役所のご協力で、帷子川環境学習をZOOMによるオンラインで行いました。

◎6年 日光修学旅行〔11月2日(火)～3日(水)〕→中止

- ・小児の感染状況の見通しが困難なため中止の判断をしました。
- ・卒業年度にふさわしく、また子どもたち自身が自分たちの行事として達成感を得ることのできる日帰りの代替行事を実行委員が中心になって検討し、八景島シーパラダイスに行きました。

◎45周年記念フェスティバル〔12月4日(土)〕

- ・全学年、自然や環境に関する学習会を行いました。
- ・餅つきについては中止とし、もち米の持ち帰りをしました。

◎45周年記念運動会〔11月6日(土)〕

<全般的なこと>

- ・低・中・高学年に時間を分けて実施しました。児童、保護者とも入替制で参観していただきました。
- ・お弁当は食わず、運動会終了後に各学級で帰りの会を行い、下校しました。
- ・赤白の組分けは1組を赤組、2組を白組とし、審判係や得点係は置かないため、徒競走の順位付けや得点化はせず、総合成績としての順位はつけませんでした(競争の否定という趣旨ではなく、昨日の自分をライバルとして、より速く、楽しく走れるようになることを目指しました。)

<保護者参観について>

- ・保護者は児童1名につき、2名の参観とさせていただきました。
- ・低・中・高学年へ、色別の保護者用プログラムを配付し、それを参観用のチケットとしてお持ちいただきました(校地内への不審者侵入対策を兼ねています)。
- ・観覧者の場所取りや、シート・椅子の設置は禁止としました。
- ・観覧者のビデオ撮影は可、SNS等のネット上への投稿は禁止としました。
- ・実施後にオンラインでの保護者アンケートにご協力いただきました。

<運動会に向けての活動について>

- ・リレーは練習、本番とも3学年の児童が集合して行うことになるため中止しました。
- ・他のグループの競技や演技を教室でも見られるようにするための映像放映と、準備体操を含む開閉会式を校内TV放送で行いました。

<会場について>

- ・入退場門は作らず、演技も集合場所から直接並びました。
- ・テントは1つ(放送席・救護係が入る)のみ設置しました。
- ・児童用の椅子は校庭に出しませんでした。
(低・中・高学年の入れ替わりをスムーズに行うため)

<競技方法について>

- ・個人種目は全学年50m走とし、学年ごとに並び、スタートしました。
- ・徒競走のコース幅は、例年の1.5倍の120cm×4コースとしました。
- ・団体演技でかけ声を出す場合は、距離やタイミングに配慮して行いました。

◎水泳学習の実施

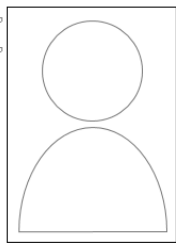
- ・昨年度は休校期間があり、水泳学習前に健康診断が実施できなかったこともあり、水泳学習を見送りました。
- ・コロナ感染症の流行以前は、2学年合同で水泳学習を行っていましたが、国からの指示で、プール内でのソーシャルディスタンスの確保が必須とされていたことから、今年度は小学校入学後、水泳学習をすることができていない1・2年生で、クラス単位での実施としました。
- ・他学年では「水の安全について」の学習を行い、水難事故を防ぐための取組を行いました。

3 休校や分散登校への備え

・iPad、ロイロノート、Google Workspaceの活用

- 本校ではGIGAスクール開校式を、今年度4月26日(月)に行い、全校児童に「GIGAスクール免許証」を渡しました。免許証には、学習においてiPadを使う際に必要となる、IDやパスワードなどが記載されています。同じ内容の情報が記載された書類を、各家庭にも配付しました。
- GIGAスクール開校式では、iPadなどの端末を、これからは鉛筆や消しゴムのような文房具と同じように活用していくことや、iPadやネットを使う時の約束として、普段の生活と同様に、人が嫌がることはしないことなどを、子どもたちに繰り返し伝えていきます。
- ロイロノートについては、子どもたちは既に使い方を覚え、学習の中で、学年に応じた活用をすることができてきています。授業参観の中でも多くのクラスで活用する様子がみられました。1年生においても、iPadで草花の写真を撮ったり、使い方に慣れるためにさわったりする中で、少しずつ自分の力でiPadを活用できるようになってきています。
- 高学年の子どもたちにおいては、休み時間の係活動においても、ドキュメント(ワープロアプリ)を使って、共同編集したり、Googleフォーム(アンケート機能)を使って、クラスの友達にアンケートをとったりする姿が見られます。
- プログラミングについても、雨の日の休み時間などに、子どもたちはアプリで遊びながら、プログラミングの仕方を身に付け、自分や友達を楽しめるようなゲームを作るといった姿が見られます。個別支援学級の子どもたちも、自分で書いた絵を動かすプログラムを組んで、4・5組のclassroomにアップし、友達や担任と共有することを自分から行うなど、楽しみながら活用しています。

以上のように、ICT機器の活用を日常化することで、緊急事態宣言やクラスターの発生、また地震等の災害により、学校が休校となってしまった際などにも、家庭と学校を繋ぎ、子どもたちの学びを止めないために生かしていくことができると考えています。

みなほんしょう GIGA めんきょしょう		名前
はっこうしゃ	南本宿小学校 校長 西尾 琢郎	
こうふ	令和3年 4月 26日	
南本宿小学校そつぎょうまでゆうこう		
めんきょのじょうけん ◇つぎのICTスタンダードをまもること ①じぶんのアカウントをたいせつにします。 ②こじんしょうほうやけんりをまもります。 ③つかう「ことば」をたいせつにします。 ④きかいやインターネットとの「よりよいつきあいかた」をかんがえます。		
	ID	パスワード
Google	☆Google にログインしていれば、そのままログインできます。	
ロイロ・ノート	学校：y321 ユーザー：	
ラインズドリル		

4 未来につながる資質・能力の育成

・情報活用能力

→ 上記で例示したICT機器の活用等は、普段の学びを深めていくためにも有効であり、多くの情報を取捨選択、整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく、適切な形で発信・伝達したりするなど、これからの未来において、様々な問題を発見・解決していくために必要な資質・能力であると言えます。

本校では今後も、活用する場面を多く設定し、子どもたちが情報活用能力を高めていけるように支援していきます。

・持続可能な社会の創造に貢献する力の育成(ESD※)

→ 子どもたちが住んでいる、この地域の豊かな自然や文化財を生かし、まちの人と関わりながら、まちの自然や歴史・文化を守り、次の世代につないでいくために、進んで考え、行動する子どもの育成に、本校はこれまで取り組んできました。将来も、このまちに愛着をもって、大人になってからも、まちづくりに関わり続ける人を育てていきたいと思えます。Think Globally, Act Locally.(地球規模で考えよう、足元から行動しよう。)という言葉を意識して、教育活動を行っていきます。

※ESD・・・Education for Sustainable Development
(持続可能な社会の創り手を育む教育)